

(別記様式)

令和元年度 京都府立舞鶴支援学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (計画段階・中間評価・**実施段階**)

学校経営方針 (中期経営目標)	本年度の学校経営の重点 (短期経営目標)	令和元年度 学校経営計画 成果と課題
<p>「よく学び、より鍛え、よりよく挑む」児童生徒の育成のため、目指す学校像の実現を図る。</p> <p>〔目指す学校像〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>一人一人の教育的ニーズに応じて先導的で特色ある教育活動を行う特別支援学校</li><li>児童生徒の心と体の健康と安定を図り、安全で安心して過ごせる特別支援学校</li><li>保護者と児童生徒一人一人の願いの実現を目指す特別支援学校</li><li>専門性を生かし、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たす特別支援学校</li><li>福祉・医療・労働等の関係機関との密接な連携のもと、教育課題に積極的に取り組む特別支援学校</li><li>家庭や地域社会に開かれ、信頼される特別支援学校</li></ul>	<ol style="list-style-type: none"><li>学習指導要領の改訂を踏まえ、12年間の系統性のある教育課程編成の検討を行うとともに、ICTを活用した学習指導の充実等、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業作りを推進する。</li><li>地域との関係機関との連携を強化し、体験学習や職場体験・実習の機会拡大、職業教育の推進等、キャリア教育・就労支援等の充実を図る。</li><li>地域とのつながり、社会と目標を共有し、「社会に開かれた教育課程」のもと、児童生徒に「生きる力」や「働く意欲」を育むとともに、児童生徒の力や可能性等を積極的に広く地域へ発信し、理解啓発を図る。</li><li>府北部地域における特別支援教育の相談支援の拠点校として、「トータルサポートセンター(TSC)」は、他の地域支援センター等と連携し、地域の支援力の向上に努める。</li><li>教職員の働き方を見直し、心身共に健康で、意欲と能力を十分発揮できるよう業務改善を進める。</li><li>教職員の人権意識、コンプライアンス意識を一層高め、教職への情熱、豊かな人間性、高い専門性を基盤とした指導力のある人材を育成するとともに府の示す指標をもとに各ライフステージに応じた目標をもちながら日々実践する。</li><li>事務部は、学校運営に係わる事務の企画、立案及び連絡調整を行い、安心安定で深い学びを実現するべく、効果的な学校運営が行われるよう努める。</li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>全体研修会等を活用しながら学習指導要領の改訂の理解を進めるとともに、研究主題「地域資源を生かした授業づくり～ICT・ATを効果的に活用しながら～」のもと地域とつながる新たな取組やICT・ATの効果的な活用を通して児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりについての授業研究を進めることができた。また、12年間の系統性のある教育課程編成の検討については、道徳の段階別達成目標を作成するなど一定の成果があった。次年度にむけては、「主体的・対話的で深い学び」をさらに充実させていくための新たな視点での研究が必要である。</li><li>地元池内地域や舞鶴市全域における関係機関との連携を図りながら、福祉事業所フェアを開催し、保護者が福祉事業所について理解を深められる場を提供することができた。また、外部関係機関との連携や、これまでのつながりで得た情報をもとに、職場体験・実習先の開拓を行い、新たに5事業所での体験や実習を実施し、機会の拡大が図れた。12年間を見通した進路指導の内容を具体的に示し、計画的な指導につながるよう、引き続き検討していく必要がある。</li><li>地域行事での太鼓披露や地域の方々の協力を得て実現した竹炭づくりや年間を通して学んだ米作りなど新しい取組・実践をすることができ児童生徒の「生きる力」や「働く意欲」の育成につながった。また、児童生徒の取組や様子を学校だより等をとおして保護者をはじめ広く地域への発信をすることができた。次年度は、さらに学校ホームページの充実をめざし児童生徒の力や可能性を発信し、理解啓発を図っていく。</li><li>北部3地域支援センターの共催で研修講座を実施し、コーディネーターのスキルアップを行った。</li><li>出退勤システムの活用から勤務時間についての振り返りができ、教職員一人一人が意識して自己の働き方の改善に取り組めた。また、ノー残業ディやノー会議ディが定着し、計画的に業務を進めることができた。勤務時間外留守番電話対応が実施できた。</li><li>職員会議や学部会等における研修や協議をとおして、自分自身を振り返り、教職員の人権意識やコンプライアンス意識を高めることができた。また教職員間で意識し合いながら、授業改善や丁寧な生徒指導の在り方についてお互いが学び合い、専門性を高め日々の実践を充実させることにつながられた。</li><li>予算についてプレゼンや各月の状況報告を行うことで、学校運営に対する教職員の意識が高まり、協力体制が強固になった。学校運営がスムーズに効果的に行えるよう連絡調整を行い、予算措置を行った。 安心安全は、実現できるように配慮できたと思うが、予算的な制限もあり</li></ol>

		深い学びを実現するところまでは、配慮しきれなかった。
--	--	----------------------------

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	教育目標実現のため、機能的な分掌組織体制の改善に向けた運営を行う。	企画運営会議で、各分掌や委員会等、組織運営体制を点検し、機能的・効率的な運営を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画運営会議において様々な視点で組織運営体制の点検を図り、機能的・効率的な運営を図っているところであるが、会議、行事の精選・業務改善・教育の充実等に向けて新たな視点での検討・改善が必要である。</li> <li>教育目標実現のため各分掌の組織的な動きのなかで新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が学部研究会や校内研修会・舞鶴工業高等専門学校との連携による出前授業を積み上げるなかで一定の成果がみられた。また、ICT・ATを有効に活用した授業実践も積み上げたことで次年度の研究の礎となった。</li> <li>学校防災会議での協議や取組をもとに日頃から安心・安全な学校作りを教員一人一人が意識し、防災に対する意識の高まりがみられた。またそれが、避難訓練に向けての事前学習・事後学習の充実にもつながっている。来年度は、遊歩時や無告知による避難訓練を実施し、さらに安心・安全な学校作りの充実をはかる。</li> <li>一人一人が勤務時間を意識した業務改善や職場としての環境改善を進める中で一定の成果がみられた。分掌の業務量の平準化や環境改善等の課題解決に向けて校内で意見をつのり検討した上で、次年度構想につなげ働き方改革の充実を図る。</li> <li>中間評価の中で課題としたところを踏まえ各分掌で取り組み、丁寧な総括評価を行うことができた。来年度に向けて外部評価から得た意見をもとに改善を図り、学校運営の活性化につなげていく。</li> <li>学校評議委員に依頼した学校評価アンケートの中で地域とつながる新たな視点のアイデアや充実に向けた取り組み方を御助言いただいた。それをさらなる教育実践の充実結びつけて、さらに地域との連携・協働した取組の充実を図っていく。</li> </ul>
		新学習指導要領の主旨を踏まえ、授業づくり及び校内研修等による研究推進により成果と課題を明確にし、本校の教育課程編成に向けた検討を行う。	B		
	学校の安全管理を徹底し、安心・安全な学校作りを進める。	安全マニュアルについて周知し、緊急時の対応がより適切にできるようにする。	B	B	
		地震、火災、土砂災害を想定した避難訓練を実践的に行う。	A		
		施設設備の定期点検を行う。	B		
	働き方改革の実現に向けた取組を進める。	一人一人が勤務時間を意識した働き方を実践できるよう、職場としての取組や環境改善を推進する。	B	B	
		総実務時間の短縮、分掌の業務量の平準化等学校業務改善及び勤務負担軽減の取組を進める。	B		
	学校評価を実施し、学校運営や教育活動の実施状況を点検・評価し、教育活動の充実と改善に努める。	中間評価と総括評価を行い、学校運営の点検、改善を図る。	B	B	
外部評価（保護者・学校評議員等）を行い、学校運営の活性化や見直しを図る。		B			
学校評議員会を開催し、開かれた学校運営を進める。	学校評議員会を年2回開催し、助言を得て学校運営の活性化や見直しを図る。	B	B		

教育課程の編成と実施	「つきたい力（健康な心身・生活に生きる確かな力・豊かな人間性と社会性）」を踏まえた教育課程を編成し、実施する。	教育課程検討会議を中心に、教育課程改善を進め、ICT・ATの活用を含めた授業改善を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンやタブレット端末を使用して、調べ学習をしたり、プレゼンテーションアプリを活用して資料にまとめて発表したりと児童生徒が主体的に学習できた。児童生徒の興味・関心を引き出し、学習効果が出ている教科も多い。高等部では、学習や進路実習の記録を入れるポートフォリオなど、新たな活用を広げていきたい。</li> <li>・保護者と連携を図り児童の体調を整えたり、心身の調和を取ったりするよう働きかけることができた。欠席が多い生徒については、保護者と連携して生活リズムの立て直しを図り、スモールステップで目標提示や、行事や進路の取組に向けた働きかけなどを行った。今後も保護者や校内の関係部署との連携を続ける。</li> <li>・小学部では係や当番等の活動を取り入れることで、自分の仕事に責任をもつことの大切さを学ぶことができた。中学部では、販売学習等、体験的な学習をとおして日常生活につながる力を育むことができた。高等部では京しごと技能検定の清掃・パソコン・接客の3分野から、実態に合わせた学習に取り組み、検定にも挑戦した。検定以外にも技能を生かす機会を設定し、生徒は意欲的に学ぶことができた。</li> <li>・話し合いの場やペア活動等を取り入れる学習を設定したことで児童生徒が他者と協力しながら課題を解決していく経験を積むことができた。</li> <li>・作業学習で主体性を引き出す活動を取り入れる学級が増え、タブレット端末を活用した製品PRや工程の紹介等も充実した。地域の方に協力を得て「竹炭作り」など新しい取組もできた。</li> <li>・観点別評価の導入に向けて全体研修を行った。実際の評価の基準や観点については今後も引き続き検討が必要である。</li> </ul>	
		生活リズムを整えるとともに、身体の学習などを通して健康維持のための取組を充実させる。（健康な心身）	A	A		
		家庭と連携を図りながら、「日常生活の指導」等を通して生活習慣を身につける。（健康な心身）	B			
		働く力や生活する力の基礎となる取組を進める。（小学部）（生活に生きる確かな力）	A			
		体験的な学習を通して、働く力や生活する力を高めるための指導を充実させる。（中学部）（生活に生きる確かな力）	A	A		
		作業学習や進路学習などを通して、進路希望の実現及び生活の質を高めるための指導を重点化して進める。（高等部）（生活に生きる確かな力）	A			
		集団の中で役割を果たしたり、協力したりして、達成感を持てる活動を充実させる。（豊かな人間性と社会性）	B	B		
		学習への興味・関心を広げ、児童生徒が主体的に活動できる指導を行う。（豊かな人間性と社会性）	B			
	評価の観点について整理し、個別の指導計画を充実させる。	B	B			
文書情報管理	個人情報適切な管理を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報教育部と連携して、個人情報の保護に関わる研修を行い、注意喚起を行うことができたが、今後はスクールファイル内の個人情報の管理も行っていきたい。</li> </ul>	
	児童生徒の基本的な生活習慣を確立し、	学校生活のルールやマナーが身につくように、教育	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活のルールやマナーを年度当初に教職員間で</li> </ul>

生徒指導	主体性、協調性、社会性を養うために、全教職員が総力を挙げて指導にあたる。	活動全体の中で指導を行う。				確認し、一貫した指導が行えるようにした。また、高等部生徒には学校生活におけるルールやマナーについての文書を配付し、指導も行ってきた。個別に対応が必要な場合は、今後も適宜指導を行っていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導上の事象について、各学部の生徒指導部員が把握した情報を部員間で共有することができた。個別に対応が必要な児童生徒には、生徒指導部員も一緒に指導を行った。緊急を要する事案に関しては、臨時に集まり共有することができた。</li> <li>児童生徒の実態に合わせて、いじめ防止基本方針の指導を行った。いじめの防止や人間関係の構築については、各学部の生徒指導部員が把握し、児童生徒の様子を要観察し、今後も適宜指導を行っていく。</li> <li>高等部では、各委員会のニーズに応じて活動することができた。</li> <li>交通ルールやマナーを中心に、道路での安全な歩行や自動車走行の仕方について学ぶため、舞鶴警察署と連携して、全学部で交通安全教室を実施した。</li> <li>舞鶴警察署との連携のもと、教職員対象の不審者対応訓練を実施し、様々な状況下における対応の方法を学ぶことができた。</li> </ul>
		児童生徒の生徒指導上の事象について、課題を教職員間で共有し、保護者や地域及び関係機関と連携を図りながら迅速に対応する。	B			
		府の方針に基づき、本校のいじめ防止基本方針を児童生徒の実態に合わせて改訂し、いじめ防止及びより良い人間関係作りに努める。	B			
		生徒の主体性・協調性・社会性を養うために、高等部委員会活動の充実化を図る。	A			
	学校安全教育を推進し、児童生徒の実態に合わせた指導の充実と徹底を図る。	児童生徒の実態に合わせた、交通安全教室等を実施する。	A	A		
人権教育	人権教育について、教職員の認識を深め指導力の向上を図る。	人権研修会を実施することで、教職員の人権意識を高め、教育活動全体を通して人権に関わる取組を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「障害者差別への理解を深め人権教育の指導に生かそう」という演題で本校職員による研修を行い、保護者の思いや児童生徒への言葉かけなど人権意識向上に向けた良い研修の機会になった。</li> </ul>
進路指導	高等部3年生の進路希望の実現を図る	本人及び保護者との進路相談に基づいた実習を行い、生徒自ら進路希望の実現ができるように支援する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>3者面談や進路相談会を実施して、本人や保護者のニーズの把握に努め、今後の進路の取組について相談を進めた。</li> <li>福祉事業所フェアを開催して、保護者が福祉事業所について知り個別の質問について直接事業所から答えてもらう場を提供することができ、保護者からも事業所からも好評であった。</li> <li>外部関係機関からの紹介や、これまでのつながりで得た情報をもとに、職場体験・実習先の開拓を行い、</li> </ul>
		情報収集に努め、進路開拓に取り組む。	B			
		進路連携会議を開催し、ハローワーク、行政、生活支援センター、福祉施設等と連携を図る。	A			

	12年間を見通した進路指導の充実を図る。	体験的な学習の設定など、進路希望の実現を図るための進路指導計画を作成する。	B	B	<p>新たに5事業所での体験や実習を実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路協議会を実施して、本校の進路の取組や生徒の様子について情報の共有化を図ることができた。</li> <li>福祉施設や企業での見学・体験・実習を計画し、計画に沿って実施できた。</li> <li>スムーズな学部間移行を目指して体験的な学習を設定し、取り組んだ。</li> <li>12年間を見通した進路指導の内容を具体的に示し、計画的な指導につながるよう、引き続き検討していく必要がある。</li> <li>卒業生についての情報収集を行い、必要な事例において、関係機関と連携しながら支援を行うことが出来た。また、必要なケースについては、支援を継続している。</li> </ul>
	卒業生のアフターケアに努める。	卒業生の実態把握に努め、必要に応じて支援を行う。	A	A	
研究・研修	研究主題「地域資源を生かした授業づくり～ICT・ATを効果的に活用しながら～」のもと、授業研究と教育課程編成の検討を進める。	地域とつながる取組やICT・ATの効果的な活用を通して児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりについての授業研究を進める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に沿って学部研究および授業研究を進めることができた。研修や校内の実践報告、学部研究会等で学び合いながら、地域との関わりやICT・ATを活用した授業づくりについての意識を高めることができた。今後も継続できるよう取り組んでいきたい。</li> <li>学部研究会でICT・ATの使い方について体験等を通して交流、共有することができ、日々の実践に生かせる知識や技能を高めることができた。児童生徒の実態に合った効果的な活用になるよう、今後も検討していきたい。</li> </ul>
		学部研究会を計画的に行い、系統性のある教育課程編成の検討を進める。	B		
	研究・研修に関する情報・資料・文献等を収集・提供する。	教職員回覧や資料・文献閲覧場所を整備して、自己研修を進める。	B	B	
外部専門機関との連携、様々な事業の活用、相互研修等、様々な形式で研修会の充実を図る。	校内研修会や授業参観等を通して、教員相互が学び合い、高め合う環境づくりを進める。		B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業の実施方法を1学期に公開授業月間を設定したこと、授業参観シートを活用するなどに変更したことにより以前より気軽に学び合うことができるようになった。</li> <li>全校の約半数の参観者なので、今後も環境整備が必要である。</li> <li>テーマ別研修会では、職員のニーズをもとにテーマを設定し、学びを深めることができた。参加者が増えるようなテーマの選定を心がけたい。</li> </ul>
	事例研修会や講演会、出張報告等を通して、教職員の専門性や指導力を高める。		B		
	P T Aと連携して、卒業後の生活を考えていくための研修の機会を持つ。		B		

						<ul style="list-style-type: none"> <li>出張報告等は、研修会や特別支援学校の公開研究会等の冊子や資料を閲覧することで、情報共有や自己学習に役立てることができた。</li> <li>施設体験研修において、参加者の減少と固定した職員の参加により研修の持ち方や内容などは、今後の課題である。</li> </ul>
健康 安全 教育	計画的な健康安全教育を推進する。	保健教育・性教育の年間指導計画を立て、各学級やグループで指導を進める。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級・グループで保健教育・性教育の年間指導計画を立てて、計画に基づいて指導を進めることができた。</li> <li>保健室や関係の分掌と連携して指導を進めることができた。毎月の部会で各学部の児童生徒の様子を交流して健康状態について共有することができた。</li> </ul>
	健康に関する一人一人のニーズを把握し、日常場面で指導を進める。	保健室と学部及び関係分掌が連携し、心や体の健康について指導を進める。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度大きな怪我が少なかった。</li> <li>毎月ヒヤリハットの回覧をし、全校で共有して安全につとめたが、傷病のヒヤリハットにおける視点が統一されていないので、教員間の中で確認する必要がある。</li> <li>歯科衛生士の方に来校していただき、歯磨きについて児童生徒に指導を行うことができた。</li> <li>学校保健会議で「児童生徒の実態に合わせた健康管理について」というテーマで各学部の報告をすることができた。</li> </ul>
	校内の環境美化を進め、望ましい環境作りを行う。	使用教室等の安全点検や整理整頓、校内の清掃指導を行い、望ましい学習環境作りに努める。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検を毎月行い、修理が必要な場所・危険な場所を挙げて改善し、環境美化に努めることができた。日常的に校内の整理整頓・清潔に保つことを心がけることができた。また、中学部棟のカーテンを洗濯することができた。</li> </ul>
食に 関する 指導	子どもの望ましい食習慣の形成や食に関する理解の促進のため、給食指導を充実させる。	児童生徒の実態を把握し、指導に生かすために、給食に関する実態表、食事に関する調査書の活用を促す。	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度変更した書式で実態把握を行っており、食形態の変更手続きの中で活用する等、よりよい活用の仕方を模索している。</li> <li>全校での災害時想定給食を実施し助け合い、協力する体験ができた。</li> <li>行事食に加え、読書給食や昔の給食などをテーマにした献立の工夫をした。年間計画を活用し、給食月間など計画的に指導ができた。ランチルームの掲示の工夫など、今後さらに充実させていく。</li> <li>年度当初、「食に関する指導のガイドブック」を作成し、整理を行った。アレルギー研修を行った。次年度も細部変更し、より活用しやすくする。</li> </ul>
		災害時想定給食を計画、実施し、防災や食への意識を高める。	A			
	学校教育全体を通じて、食に関する指導の充実を図る。	年間指導計画を活用し、季節や行事に合わせて、食に関する指導の充実を図る。	B	B	B	
	安全に給食その他の摂食を伴う指導が実施できる環境を整える。	給食や食に関する学習の申し合わせ事項を周知し、衛生管理や安全管理を行う。また、配慮食やアレルギー対応食の周知徹底を図り、安全に食に関する指導を進める。	A	A		
地域とつながり、地域に貢献する活動を推進することにより、学校に対する地域	地域との交流及び地域の人材や資源の提案・活用を推進するとともに、社会に開かれた教育課程の充実	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部で地域の人材や資源を活用した実践を進め、敬老会の和太鼓発表や城南中学校との交流等、新た</li> </ul>	

地域連携	の理解と信頼を高める。	を図る。			<ul style="list-style-type: none"> <li>な取組に発展させることができた。</li> <li>堀地区の防災無線を通じ、学校の行事等を地域に発信し、理解を図った。</li> <li>中学部生徒が地域の方々と一緒に地域清掃を行い、環境美化活動をとおして地域貢献に努めることができた。</li> <li>高等部の苗販売会で本校の教育活動について理解を広げると同時に、当日来校した地域の方々に接客することで地域に貢献することもできた。</li> <li>池内地区敬老会で和太鼓を披露することができ、特別支援学校の取組を知ってもらうよい機会となった。</li> <li>中丹学校文化祭のオープニングでは、大きな舞台上で堂々と演奏し達成感を味わうことができた。また、中丹地域の自分たちと同年代の高校生たちがどのような活動をしているのかを知ることができ、とてもよい経験となった。</li> <li>池内小学校との交流で池内小（3、5年生）全員とボッチャを通じて交流することができた。</li> <li>高等部オープンスクールにて和太鼓演奏を披露し支援学校の取組を発信することができた。</li> <li>居住地校の教育活動を通じて、交流及び共同学習を計画的に取り組むことができた。また、小学部は意欲的な保護者が増えて学期毎に1回の交流と運動会への参加を希望する児童が増えた。中学部生徒も作品を通じて交流する学校が増えた。交流内容の充実に向けて今後も検討する必要がある。</li> <li>池内小学校との交流では児童数の減少により、交流回数や内容の検討を進め、今年度は交流の仕方を変更したが継続して年間を通じた交流に取り組むことができた。今後、池内小学校以外の交流校を検討するなど校内で見直しをし、充実した交流ができるように検討する必要がある。</li> <li>城南中学校とボッチャを通じて交流することができた。今年度は単発の交流になったので、交流回数を増やす等改善が必要である。</li> <li>ふれあいレクリエーションでは、舞鶴市の小・中学校支援級、府立支援学校が一同に会して、歌やゲーム等で交流することができた。また、全日参加できたことで連合作品展の鑑賞をすることもできた。今</li> </ul>
		ボランティア活動や学校行事等の機会を通して、地域に貢献する活動を推進する。	B		
		和太鼓の演奏披露やボッチャに取組を通して、地域での活動を推進する。	A		
	近隣の学校との交流及び共同学習を推進する中で、社会性や思いやりの心、豊かな人間性の育成を図る。	個に応じた居住地校との交流及び共同学習を進める。	B	B	
		小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習を進める。	B		
	地域での作品展に出展し、本校の教育への理解を図るとともに、児童生徒の表現・創造意欲の育成と個性を伸ばす。	児童生徒の作品を、地域の公共施設や企業等で展示するとともに、地域の文化行事等へ積極的に出展する。	B	B	

					<p>年度は木曜日開催だったことで全日参加することができたが、開催曜日によっては全日参加ができない可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西舞鶴高校との交流及び共同学習では事前の打ち合わせで生徒の実態を共有し、本校で音楽や卓球バレーを通じて交流することができた。また、太鼓組は西舞鶴高校の書道部生徒とコラボレーションで発表することができた。</li> <li>西舞鶴高校書道部員の減少に伴い、今後は太鼓組との交流ができない可能性があるため、交流方法を検討する必要がある。</li> <li>西高文化祭とふれステの日程が重なってしまい、西校で和太鼓発表ができなかった。文化祭以外で交流する機会を検討する必要がある。</li> <li>ハローワーク、モスバーガー舞鶴店、舞鶴赤十字病院で作品や製品を常設展示してもらい、定期的に作品や製品の入れ替えをすることができた。年度初めは作品が完成していないことが多く、展示できる作品が少ない。</li> <li>中丹学校文化祭や、地域で開催される作品展に積極的に出展することができた。しかし、担当者への引き継ぎができていなかったことで、出展できなかった作品展があった。引き継ぎ資料を作って多くの作品展に出展できるようにする。</li> </ul>	
広報活動	本校教育の取組や児童生徒の活躍を伝える学校だよりを作成し、地域社会に配布する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の児童生徒の教育実践や行事、また、地域とつながる取組、ICT・ATの活用など研究テーマに沿った授業の紹介などを、学校だよりや学校ホームページを用いて、計画的に発信できた。</li> <li>学校だよりや学校ホームページとも、読みやすい紙面を工夫し、発行・更新できた。</li> <li>学校ホームページメニューの内容見直し作業に取り組んだが、今後も継続して見直しを行う必要がある。</li> <li>学校ホームページの「お知らせ」欄をタイムリーに更新することができた。</li> <li>著作権の職員研修に取り組むことができた。</li> <li>掲載の確認作業を複数で取り組むなど、児童生徒のプライバシー保護に努めた。</li> </ul>	
	地域とつながり、地域に貢献する学校として、学校だよりや学校ホームページなどにより、本校教育の特色を積極的に発信し本校への理解が深まるようにする。	学校ホームページの作成や更新(特にホームページメニュー→「本校の教育活動」など内容の見直し)を、計画のもと、タイムリーに行う。				A
	学校ホームページが円滑に運営、閲覧できるよう、適切に管理する。	B				
	著作権や情報モラル、児童生徒のプライバシー保護に努め、責任を持って広報活動を行う。	A				



情報教育・図書館教育	学校の情報化を推進する。	教職員の情報教育に関する意識や技能の向上を図り、ICT活用能力を高め、校務や教育活動に生かせるようにする。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の情報セキュリティポリシーについて校内研修を行い、共通理解を図ることができた。</li> <li>校内イントラネットを構築し、共有プリンターの設置、ファイルサーバーによる情報の共有を行って効率のよい業務に努めた。</li> <li>事務処理業務の効率化と利便性の向上に向けて、ネットワークを活用している。</li> <li>舞鶴工業高等専門学校の出前授業を本校で実施し、タブレット端末の使い方や支援機器の活用例を広め、職員のICT活用能力を高めることができた。</li> </ul>
		イントラネットの活用により、各種情報が適切に共有、活用されるようにする。	B			
		教育機関の全体研修や出前授業によって、教育活動に生かせる支援機器を作成し、ICT・ATを活用した授業づくりを進める。	B			
		ネットワークのセキュリティポリシーについて、教職員に周知徹底する。	B			
		児童生徒の発達段階に応じた、情報モラル教育の推進を図る。	B			
	児童生徒が読書に親しむ機会の提供に努めるとともに、施設、設備その他の諸条件の整備・充実に努める。	児童生徒の実態に応じた選書や環境の工夫、視聴覚機器の活用等による推進を図る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書管理システムや図書室の利用方法を整備し、円滑に図書の貸し出しや図書室の利用を進められている。</li> <li>ボランティアサークルによる「人形劇鑑賞会」を開き、絵本や本への興味・関心を高めることができた。</li> </ul>
センター的役割	関係機関との連携を強化し、地域の支援力の向上につながる活動を行う。	相談後の状況を把握し、ニーズに応じた適切な相談支援が行えたか検証を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談3か月後を目安にその後の児童生徒の状況把握を行い継続した相談につながった。</li> <li>巡回日時の調整が難しい中通級指導教室担当者と協働した教育相談を行い、継続した支援につながった。</li> <li>合同研修会も定着し、現場の先生方のニーズに応える研修会ができた。</li> <li>回毎にテーマを設定し関係機関の情報共有を行った。更に連携を伸展するには意見交流が必要になる。</li> <li>今年度北部の地域支援コーディネーターの半数が交代した。2回研修会を実施しスキルアップを行った。</li> <li>地域の支援力向上を目指す取組を交流し、今後の北部地域のセンター的機能について協議した。三支援学校共催で夏季研修講座を実施し、北部地域の実践力向上の研修にニーズに応えた。</li> <li>TSCスタッフ会議で各部署からアセスメントで大切にしている視点を交流し、スキルアップを行った。</li> </ul>
		通級指導教室担当者と連携を強化し、協働した巡回教育相談を行う。	B			
		舞鶴市教育委員会、舞鶴市健康・子ども部幼稚園・保育所課と共催した『特別支援教育合同研修会』を充実させ、ニーズに応える研修会を行う。	A	A		
		関係機関と地域特別支援連携協議会を構成し、支援状況の交流を行い、機関連携を強化する。	B	B		
北部地域支援センターの拠点校としての役割を踏まえた取組を行う。	拠点校として「北部地域支援センター連絡会」を運営し、地域支援に関する情報共有を図る。	B	B	B		
	北部の地域支援センターと連携し、今後の特別支援学校のセンター的機能について協議を行う。	B				
	関係部署と連携して、校内の支援力の向上と人材育成に取り組む。	事前事後の打ち合わせを大切にされた校内巡回相談員と協働した巡回教育相談を行い、人材育成を行う。	B	B	B	

事務部	児童生徒が、安心安全に学校生活を送れるようにする。	学校施設の維持管理及び学校環境の整備を行い、学校機能の維持向上に努める。	B	B	B	・安全点検の中で要望の挙がる危険な場所や不備な設備に対し、迅速に対応した。 一方、現在支障は少ないが修繕が望ましい設備に対し、予防修繕を行った。
	児童生徒が、深い学びを実現できるよう支援する。	教材教具の新規購入や更新により、学びがより深いものになるよう支援する。	B	B	B	・予算の関係で、希望調査に沿った購入は出来ていない部分もあるが、児童生徒が基本的な学校生活を円滑に送れるよう予算を使用した。

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の舞鶴支援学校は、子どもたちが「色々なことを知りたい、学びたい、活動したい」という気持ちが生まれる学校教育の場になっている。</li> <li>・子どもたちが出会いを大切にし、相手を認める心を持ち、ともに生きることの喜びを感じ、共感し、自分の考えを自己表現できる力を身につける12年間になってもらいたい。</li> <li>・日常起こりうる小さな出来事による避難、基本的災害避難等に分類し、無告知での災害に対する避難訓練は計画的に実施することが大切である。</li> <li>・教職員の業務の平準化・共有化することで、休暇をとることが可能となり、リフレッシュからストレスを減らし、心身の健康が保たれ教育にもいい結果が生まれるのではないか。</li> <li>・学級活動・ホームルーム活動等特別活動を充実させて、自分の思い、考え等を発表することで主体性も生まれ、また自分と違った人の思いや考えを聞くことで人を素直に受け入れられる人に成長するのだと思う。</li> <li>・職場体験や実習先の開拓は必要である。PTA役員・学校評議員等が中丹振興局や市・商工会議所へ出向き協力をお願いすることもできる。</li> <li>・日々進化する情報通信技術をどのように教育現場で取り組んでいくかは、教職員の技術習得・習得のための研修、そしてそれを児童生徒がいかに興味をもって活用するか等とても大きな課題である。引き続きICT・ATを活用した授業に取り組んでほしい。</li> <li>・人と人との直接的な交流が少なくなっているなか、地域との交流を積極的に行っていることはとても素晴らしい取組である。しかし、支援学校に対する理解が十分と言えない状況もあり、引き続き情報発信に取り組んでほしい。</li> <li>・ICT・ATの活用・促進は時代に合っていてよいと思う。教育としてのポートフォリオの活用は大変有意義なものである。プレゼンやポートフォリオ等のスキルアップが大切である。また、他地域の支援学校とのつながりがあると児童生徒のモチベーションもあがり、視野が広がるのではないか。登校しにくい生徒への通信教育の可能性はあるか。</li> <li>・外部（外国人）講師を導入し、英会話を12年間高等部卒業時までには一般的英会話ができるようにならないか。</li> <li>・舞鶴工業高等専門学校との連携や出前講座は定例化できるように要請し、許される範囲で定着させてほしい。</li> <li>・テレビ等のメディアからの情報だけではなく、読書の大切さを小学部時期から学んでほしい。</li> <li>・大きな舞台で達成感を味わうなど、和太鼓という大きな強みをこれからも生かし続けてほしい。</li> </ul>
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<p>学校関係者評価を受け、また国及び府が示す方向性や各分掌のまとめを受けて以下のことを重点的に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習指導要領の改訂を踏まえ、12年間の系統性のある教育課程編成の検討を行うとともに、ICT・ATを活用した学習指導の充実、障害特性に応じた指導の充実等、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進し、生活の質の向上や社会参加の広がりにつなげる。</li> <li>2 地域とつながり、社会と目標を共有し、地域の人材や資源を生かし地域との連携・協働のもと教育実践を進め、児童生徒に「生きる力」や「働く意欲」を育むとともに、児童生徒の力や可能性等を積極的に広く地域へ発信し、理解啓発を図る。</li> <li>3 教職員が生き生きと教育活動に専念できるよう引き続き働き方改革・業務改善を進める。</li> </ol>
---------------	--